

# 況をお知らせします

平成30年度養老町一般会計および特別会計の歳入歳出決算が、令和元年第3回養老町議会定例会において認定されましたので、決算の概要をお知らせします。

一般会計の決算は、歳入109億5,133万6千円、歳出106億6,718万7千円となり、前年度に比べ、歳入が1億8,395万4千円の増、歳出が1億9,831万7千円の増となりました。また、特別会計の決算の合計は、歳入79億265万6千円、歳出70億9,366万3千円で、前年度に比べ、歳入が4億4,749万6千円の減、歳出が4億5,000万2千円の減となりました。

## 平成30年度 養老町歳入歳出決算総括表

(単位：千円)

会計名	歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額	翌年度繰越額	うち翌年度へ繰り越すべき財源	実質収支額	
一般会計	10,951,336	10,667,187	284,149	387,800	20,556	263,593	
特別会計	国民健康保険	4,017,441	3,513,444	503,997	0	0	503,997
	簡易水道	34,917	9,755	25,162	0	0	25,162
	食肉事業センター	134,388	133,433	955	0	0	955
	住宅新築資金等貸付	66,291	5,301	60,990	0	0	60,990
	公共下水道事業	370,697	359,191	11,506	0	0	11,506
	農業集落排水事業	29,629	28,063	1,566	0	0	1,566
	介護保険事業	2,921,580	2,717,785	203,795	0	0	203,795
	介護サービス事業	16,488	15,648	840	0	0	840
	後期高齢者医療	311,225	311,044	181	0	0	181
	小計	7,902,656	7,093,663	808,992	0	0	808,992
合計	18,853,991	17,760,850	1,093,141	387,800	20,556	1,072,585	

(注) 表示単位未満四捨五入の関係で、積み上げと合計が一致しない場合があります。

## 平成30年度 健全化判断比率および資金不足比率

地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づき、平成30年度健全化判断比率および資金不足比率を算定しましたので公表します。

### ●健全化判断比率

健全化判断比率は、いずれも早期健全化基準を下回っており、財政の健全性は保たれていると判断できます。

(単位：%)

項目	健全化判断比率	参 考	
		早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	14.16	20.09
連結実質赤字比率	—	19.16	30.00
実質公債費比率	7.5	25.0	35.0
将来負担比率	88.1	350.0	

※実質赤字額及び連結実質赤字額がないため「—」と表示しています。

### ●資金不足比率

いずれの事業も資金不足額が生じていないことから、経営の健全性は保たれていると判断できます。

(単位：%)

会計名	資金不足比率	参 考
		経営健全化基準
上水道事業会計	—	20.0
簡易水道特別会計	—	
食肉事業センター特別会計	—	
公共下水道事業特別会計	—	
農業集落排水事業特別会計	—	

※資金不足額がないため「—」と表示しています。

### 用語の解説

- 実質赤字比率……一般会計などに生じている赤字の大きさを、標準財政規模(町の標準的な状態で通常収入されるであろう経常的一般財源の規模)に対する割合で表したものの。
- 連結実質赤字比率……上水道や下水道など公営企業を含む全会計に生じている赤字の大きさを、標準財政規模に対する割合で表したものの。
- 実質公債費比率……町の借入金(地方債)の返済額(公債費)の大きさを、標準財政規模に対する割合で表したものの。
- 将来負担比率……町の借入金(地方債)など現在抱えている負債の大きさを、標準財政規模に対する割合で表したものの。
- 資金不足比率……上水道や下水道などの公営企業の資金不足を、料金収入などの規模と比較して指標化し、経営状態の悪化の度合いを示すもの。

※より詳しい内容を町ホームページに掲載していますのでご覧ください。

URL:<http://www.town.yoro.gifu.jp/docs/2016021900210/>